

シャドウ・ワーク

作  
サカイリユリカ

※基本的には女の一人芝居である。

母親以外の役は、役者を出しても良いし出さなくても良い。

(母親、キッチンで料理をしている。)

父親、その隣で食器を持って立っている。

息子は座っている。

母親、食器を受け取ってスープを注ぐ。

父親、息子のもとへ行き、熱いスープののったスプーンを息子の口に運ぶ。

母親、それに気づきスプーンをひったくる。父親、驚いてコップを落としてしまう。  
コップ、割れて中の液体がこぼれる。)

間。

女 ・冷ましてあげるのよ・・・！どうして冷ましてあげないの？

わかるでしょう、そんなこと、普通。常識よ。

あなたほんとにこの子の父親なの。

こんな熱いのあたしだってヤケドするわ、アンタわかるでしょ。

なに、それともわざとやったっていうの？そうなの？そうなのねこのウスノロ！  
やっぱりね。あんたはいつかそうやって本性を見せるものだと思ってたのよ。  
いい気味。

私用心してたの。あんたは何かしでかすと思ってたから。正解。大正解だよ。

この子が産まれてからね、あんたには危ないものを持たせちゃいけないって思ってたの。包丁とかね。

未然の防止が大切なのよ。

だからあなた、その証拠に一回もキッチンに入ったことないでしょ？

ここにはね、包丁以外にもいっぱい凶器となりえるものがあるんだから。

そんなものあんたに持たせでもしたら、たまたまもんじゃないですからね。

掃除や洗濯も同じよ、洗剤で何されるか分からないし、

あれは毒だから・・・それからホウキの柄だってあれ固いんだからね、殴ったらひとたまりもない・・・

もし洗濯機のフタを開けっ放しにしておいて、息子が脚をすべらしたら・・・ああ置きっぱなしの、アイロ  
ンで火傷してしまうかも・・・。うちの中は凶器だらけ・・・

一番安全で身を守れるはずの家の中が！

そんな中であたしはあらゆるものから守ってきたのこの子を！

なのに・・・なのに、なに、また私の仕事を増やすの？そうなのね？

でくのぼう。あんたのことよ。なあんにもできない。

スープを飲ませるくらいは出来ると思ってたのに、あんたを信じすぎたわ。

いつだつてそう。私いつもあなたに裏切られる。もう期待なんてしない。

あたしが全部やるもの。やればいいんですよ。

あなたの役目？家庭に十分なお金を入れることだわ。それすら出来なかつたらあなた父親失格ね。

(息子に気づいて)あああつ、ほら、ごめんなさいね、お腹すいた？

どこか痛いとはない？スープ・スープ、そうねスープよね！

(夫に)スープ・冷めたみたいよ、私があんたと話してる間に！何ぼーつとしてるの、早くして！

(息子に)えっ？冷たいのは嫌？でもね、熱いとやけどしちゃうでしょう、

ああそう、そうよね、ごめんねママ馬鹿で・・・

(夫に)あなた！あなたさっさと新しいスープよそつてきてちょうだい！

鍋の中にまだあるから！一回温め直すのよちゃんと。

スプーンももちろん新しいの、食器棚から！引出し！右から二番目！

(息子に)危ない！ねえお願いだからおとなしく座つてて、さっきあの人割っちゃったんだから。すぐ片づけるからね

だめよ、動かないで、そこにいて、お願いだから・・・

裸足で歩いちゃダメ！スリッパ履いて！

病院行くことになるから！痛いわよ、痛いのやでしょう？さ、ほら、

分かつたら大人しく座つてて。

(母親、床に這いつくばり顔を床すれすれまで近づけながら割れた食器のかけらを拾い始める。)

見つからない、見つからない・・・痛ッ・・・(膝小僧をさすりつつも、探し続ける)

・・・とても取りきれない、ぜんぶなんて・・・

拾つても拾つても無くならない、終わらない・・・終わりが見えない・・・

見えない、見えない・・・

(父親、新しいスプーンを皿によそつて新しいスプーンと共に持つてくる。)

・・・置いといて、そこに。どつか行つて。私が飲ませるから。早く、行つて。

なあに？・・・掃除機を持つてこようか？何考えてるのよアンタつて人は！

そりゃあ便利になつたわ。便利でしょうよ、そりゃあ。昔に比べたらね。

掃除は掃除機で、洗濯機はボタン一つ、ご飯は炊飯器が炊いてくれて・・・

それで楽だと思つてるの？楽になつたと・・・？

結局ね、家事は無くならないの。機械なんて使い続ければいつか壊れるものよ。

どこか調子が悪くなる。そしたらそれを直す仕事も必要じゃない。

誰かがやらなきゃいけない仕事が増える、ただそれだけ・・・

お義母さんのお世話だつてそう！

お義母さんのお世話や子供の世話は、機械はやってくれないわよ。

私がこの手ずかやってみるの……

誰かがやらなきゃいけない仕事の尻拭い……

……私は完全にぐっぐっぐっぐっぐっぐっぐの家と。

アンタがよく道端に吐き捨てるガムみたいに、みじめったらしく、へばりついてんの。ぐっぐりど。踏まれるたんびにもっとぐっぐっぐいて、離れられなくなる……

そりゃあ、買い物には出かけるわ。息抜きも必要ですもの。

生活に必要なものは買いそろえておかないと……

ああ、結局家のための買い物！

おまけに息子から目が離せない……

一緒に店に行けばうるさいし、かといって家に置いて行ったら気が気でない。

今頃家で何してるのか、考えれば考えるほど不安になるの。

一刻も早くレジに向かつて、さっさと帰らなきゃと思うのよ！

(父親、そっと息子の前にスープを置く。)

……ベビー・シッターなんて、どうして信用できるのかしら……

確かに人を雇ったらどんなにか楽になるだろうって思ったこともあるわ。

でも駄目。だって、私きつとそのベビー・シッターが息子に何かしやしないか心配になると

思うのよ今度は。そっちの方がきつと今より苦しいわ。

(唐突に笑い出す)……ふふふつ、でも知ってる、ホントは何かしやしないか望んでる……！

私は息子がどんな目に遭ってるか想像しながら、同時に、そんな息子を見たときどんな顔したら

母親らしいかしら？心配そうに見えるかしら？って表情を変えて見せてる。

すぐに罵倒するべきか、気付かないふりして、ちよっぴり傷ついでるそぶりを見せるか……

あーあ……いやになる、いやになる……

(夫に)ねえ、聞いてくださる？

恥ずかしいのは親なんですよ、いつだって。

私だけが悪いんじゃないのにねえ。

ほんの少し、お箸の持ち方が違うからって何故かしら、よってたかって。

私がちやんと教えなかったのが悪い、ですって？

毎日口すっぱくして教えてたっていうのに、

あれが正しい教育でないなら、いったい何が正しい教育なのよ？

近所のご婦人がた……うちの中のごことは手際よく片づけて、着飾って外に遊びに行く。娘みたいな恰好をして！心なしか声も若くなつて！

あの人たちは器用で、私は不器用なのかしら？

いいえ！私ほね、ああいう人たちみたいにはなりたくないの、

器用に声も顔も使い分けて、若返つた氣になつて。

それでもつて家から逃避行出来た氣になつてる。

あーあ。可哀そう。馬鹿みたい。どうして分からないのかしら、家からは逃れられないつてこと！

ちつとも離れてなんて、出ていけてなんてないつてこと！

……私は善き母でありたいの。善き母であるにはそれ以外ではいけない。

いつでも母でいなくちゃ、善いとは言えないでしょう？

だいたいね、子供を産んだ時点でもうずっと母親じゃないの。

\*\*\*

(母親、テーブルの上に乗つた花瓶の花を掴み、花びらを一枚一枚ちぎっていく。)

(テーブルの上にある花瓶の花を一枚ずつちぎりながら)

愛してる、愛してない、愛してる、愛してない、愛してない……愛して……

ねえ、お金払えばそれで済むと思つてるの？

この子は私たち2人が愛し合つて出来たんだから2人で愛さなきゃいけないのよ分かる？

ああ何で作つてしまったんだろう私はあの子を！

……お義母さんのせいね、そうね、だつてお義母さんがアンタを作つちやつたから、

この子が出来たのよ。私たちが何度も何度もね、愛し合つて、でもあんなの戯れ、

そう戯れでしょ、習慣みたいなものよね、そうだったでしょう、ねえ。

だからあの日も真剣に子供作ろうなんて……出来るなんて考えてなかつたのよね。

習慣だから。習慣でいつもと同じことするつてことですよ。

……ああ、やめて。そりや嬉しかった、この子がお腹に来たとき。

でも違う、そんなことじゃない。あるときはいくら嬉しかったからつてね、

それがいつまでも続かないのよ。続きやしないの。

アンタが私に興味を失くしたのと似てるわきつと。

私、いつも頑張つていたの。でもそれじゃ全然足りないつて、

私ができることなんか当たり前のことだね、褒めてもらえないのよちつとも。

だつてそれが私の役割で、私に与えられた仕事なのよ。

そうなんでしょう？私に主婦という仕事を与えてくれた人！

(息子に向かって怒鳴るように)……なあに、そんな顔して。さつきと飲みなさいよ、冷めちゃうでしょ。そしたらキリがないでしょ、またよそつて、冷めて、また

よそつて・無くなつて、片づけて、そしてまた作つて・

分かる？ウンザリだわ。私はいつご飯以外のことを考えりやいいのよ？

片付けたら作るの。食べてる間も休まらないの。だって食べたらずけなきやならないからね！  
片づけなきや作れないからねえ！

(子供が泣き出す)

ああもう！どうしてなのあなたは！

やめなさいよ、泣くの！頭がガンガンする・・・

(ヒステリックに)静かにしなさいって言ってるでしょう！！！！

(夫に)・・・なに？疲れてるんだな・・・？あなた、そんな一言で終わらせないでくれますか？  
だいたい、疲れてるからなんだっていうんですか？

家にいないから分からないのよ、こんなこと一つとっても。

迷惑なの、子供の泣き声が、うるさいって！迷惑になるの、ご近所さんに、

陰でひそひそ文句言われるのは私よ！！！！この、私なの・・・！

ああいいわねえ家にいない人は気楽で！何の責任もなくて！

ねえ私は家政婦なの？もし家政婦なら誰に雇われてるの？

この家の家主であるアナタかしら、それともまだご健在のお義母さん？

違うわね、

みんな全部ひつくるめたこの、私の、家族に雇われてるんだわきつと！！

そうでしょ？そうに違いないわ、それしかないわ。

・・・だとしたらボランティアよね。お金もらえないんだもの。

そりゃここはオフィスじゃないし、工場でもない。家庭だわ。

だからなに？無償の愛が家庭を支えるの？

そういえばあなた、ボランティアだとか言つて、何か始めたでしょう。

何考えてるのかしら？外でボランティアするくらいなら、ウチのことやったらどうなんです？

もしここが職場で、今とおんなじ仕事をしたとしても大した給料は発生しないのかもしれない。

オフィスで一日中椅子に座つて。パソコンと睨めっこしてる人の方がよっぽど稼げるわ。

頭を使う仕事ですもんね。座つたまま指先だけ動かしてればいいんだものね。

・ねえ、でも考えてみてごらんさい。あなた。

私がこの仕事しなくなったらあなたどうなりますか？

生活していけるんですか？

ああ、そりゃあお金さえ稼げば何とかなるかもしれないわねえ・・・

・・・待つて！！！！

どうして、やっぱり、私のしていることは無駄ってこと？

だって私がいなくてもあなた生活していけるんじゃない。  
そしたら私……わたし……

でも人が生活するっていうのはそういうことよね？

生活に、家事はついてくるものよね？

料理も洗濯も掃除も、生活とは切り離せないものでしょ？違う？

違うわいわよ、ねえ。

でもあなた、どつちにしろ1人じゃ全部出来ないでしょ。

家政婦さん、雇うわけでしょ？したら。やむをえずに。

家政婦さんにはお給料をあげなきゃいけない……

つまり感謝しなきゃいけないってことね。

生活に感謝はつきものよ……

家政婦・家政、家政ってどういうことか分かる？

家をうまくまとめていくことよ。

やりくりしてくのよ、この家の中のことを！

恐怖政治でもしてやろうかしら、

あなたたち私に逆らえないの……

そして私は言うのよ、

「今日のご飯のおかずはなあに？」

「アイロンかけておいて」

「最近洗面所が汚いんじゃない？」

そんな具合にね！

\*\*\*

(スープ皿の中に突然、片手を突っ込む母親。中のスープが少しテーブルに飛び散る。)

……ほら、冷めちゃった……。

(息子を揺さぶりながら)ねえ、今うとうとしてたでしょう？どうして？

いらなのスープ……？ご飯いらなの？

嫌いなもの、これ？あつたかかないから嫌なの？

(涙ぐんだ声で)ねえ、あなたが早く飲まないからいけないのよ……

眠たいの？ねえ、ちゃんとお母さんの話聞いているの？

なに？ちゃんと喋りなさい……

……(微笑みながら)いやだ、寝ボケてるんですよ。いつまでも寝て。

寝ることしかできないの、アンタは。

しょうがないか、ボケてるんだから。

なあんにも一人でできないんだものねえ。  
でも、アンタなんて。カンタン。

だって、新しいゲームソフトとかぬいぐるみやお菓子でもあげときゃ、  
好きに時間潰しててくれるじゃない。

今日はなにしてたのかな？

テレビ？お絵かき？それともぼーっとしてた？

明日は何するの？明後日は……？

自由……自由ね。

(父親に)なに、あなた。私も自由？自由だというの？

自分で自分を家に縛り付けて、身動きがとれなくなってる？

ねえ、違うでしょう……私を縛ってるのはこの家でしよう……

自由を手に入れることは、できるのかもしれない。

だけど、あなたたち……そうさせてくれないじゃない！

おカネが必要、時間も必要……

私はとても家族想いな。自分を犠牲にしてるのよ。

私の時間は全てあなたたちに提供してる。

それが私の幸せなんですから……え？私の幸せ……どこに行ってしまったのか……

違うモノを求めている。

求めてもムダだっていうのに。おとなしくしてなきゃいけないのに。

誰かが行く手を阻んでる。

ねえ、もういい？

(何かを探すようにふらふらと歩きまわりながら)

……もういいかああい？……まああだだよ……

もういいかあああい？……まああだだよ……

もういいかい……まあだだよお……

ああ！いつになったら探しに行けるの！私の幸せ！

……ねえ、私、ほんとは何にも出来ないの……。

疲れちゃったの……だから、タスケテ……

何もできないでいるって、何もしないでもらうって……

ラク、よね。

(突然、床に四肢を投げ出す女。手足を広げて、床に仰向けで寝そべる格好になる。

これと同時に、幕が下がって舞台は上手側のスペースだけに区切られる。)



あーあ……。はやくう……。誰か、来てえ……

ほら、私、私ねえ、こうやって寝そべってることしか出来ないんです……

(身をよじりながら)あぁッ！おまけにね……

どこもかしこも痛い……。故障してるみたい……

機械みたいだね、油注せばまた動くとも思ってるの？

全身に痛み止めでも射ってくれるんですかぁ？

そこまでして、私、体を働かせなきゃいけないの？

ぼろぼろよ、どんどん蝕まれてってあたし……

こんな状態になるまでほつとかれたなんて……

(観客に)あたしをほつたらかして、何してたの？ねえ、何してたのよ？

あたしをほつたらかすほど重要なことだったんでしょねえ……？

あなたぁ……。私たちの子供は1人だけですか……？

わたしは、もう一人くらいいたって構わないと思ってるのよ……？

男の子でも女の子でも……

わたしとあなたの子ですもの、性別なんてどっちでも構わないわ。

私たち、近所の方から、ベッドの方で上手くいつてないんじゃないかって

思われてる気がしない？だって、まだ若いのに、子供1人しか作らないなんて……

あぁ……。早くあたしの身体を拭いて……。もう自分で自分の身体の世話するのが億劫、なのよ……

トイレも食事も、やつてもらわなきゃ……

あたしなんにも出来ないから……

(突然けたたましく笑い出す)あははははは、ねえ、信じた？信じたあ？わたしが

ほんとに何にも出来ないって……

ウンだからね、ウン。

だってこれは……。お母さんだもん。

何にも出来ないのはお母さんなの……！！

(子供のように駄々をこねる)

やだ、やだ、やだ……。ほつといて、行かないで、こんなとこに居たくない……

どこのこは……。こんなところ私の家じゃない。

(突然、ハツとして)あ、早くお台所へいかなきゃ! だつてもうこんな時間だもの:

いやだ: 私、今まで何してたのかしら。寝てたの? どうしよう、あ! 雨が降ってるじゃない! :

洗濯物が: :びしょ濡れ: :ああ: 今日は何を作るんだっけ: :?

スープ: :そう、あの子、スープが好きなの。そうね、外は寒いし、あつたかいスープでも: :

あの人ももうそろそろ帰ってくるころだわ。

: :やだ、空っぽ: : :どうして? :ああ、買い物に行かなかつたせいね。どうしよう、何にも食べ物がない

みたい。ああ、せつかく干したのに: :明日までに乾くかしら、あの人のシャツ: :

(突然悲鳴をあげて、床から飛び上がる)なんなのこれは: :! :

汚い: :汚い汚い! :ああ、息がつまりそう。嫌な匂い: :こんなに埃がたまつて: :

ついさつき拭いたはずなのに: : :

(自分の着ている服の裾で、床を拭き始める。と、突然、咳きこみ出して)

なんだか埃が舞ってるみたい。

あつ、ほらそこに: : :ここににも! :あ、あ、あ! (空を掴む)

あら: : (誰もいない場所に子供がいるかのように話しかける)

ぼうや、だあれ? どうしてこんなところにいるの?

お母さん、早く迎えに来ないかしらねえ: :

なんだかとても長い時間、預かっていた気がするわ。

(ふと、まるでそこに台所があるかのように、腕まくりして)

さてと: : :スープを作らなくちゃ。

(幕の一部が窓のように開いており、そこにコップを持った手を突っ込む女。

まるで雨水をコップに溜めているかようである。

水が溜まつては見えない鍋にそれを入れる、ということを繰り返す。)

とびつきり美味しいの、作らなくちゃ: : :

早く、作らなくちゃ: : :

全然いつばいにならないわねえ: :

早く、作らなくちゃ: : :

(独りごとをぶつぶつ呟きながら、繰り返し続ける)

: :ちよつと味見してみようかな: : :

(コップをすすり、笑みを浮かべる)あつ: : :おいしい。早く帰ってこないかしら: :

ふふ、もつと作らなくちゃ: : :